事例No.	2690
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	北海道東川町

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

北海道東川町

出典

令和元年度ふるさとづくり大賞事例集

優　秀　賞

北海道東川町

定住促進　観光振興・交流　まちなか再生　産業振興

概　　要

東川町は、大雪山や家具デザイン、地下水での生活など、町に蓄積された「モノ」「自然」「文化」「生活様式」を広範に「資源」として捉え、「写真の町」の取組により蓄積された国内外のネットワークを活用し、人と人とのつながりによるあたたかな「まちづくり」を展開している。

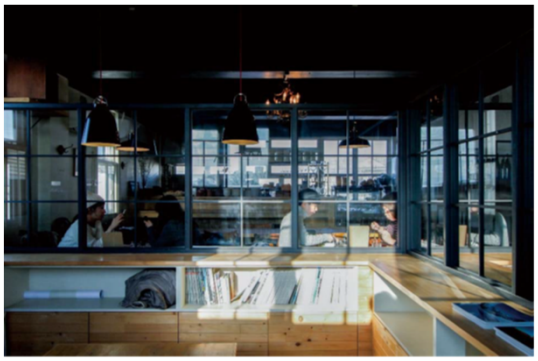
未来の東川に投資する「ひがしかわ株主制度」や、全国初となる公立日本語学校の開設は、本町への多様な人の流れと国内外にさらなる「東川ファン」を生み出し、自ら小さな飲食店を営みながら労働時間に縛られない自由なライフスタイルを営む移住者による人口増を生むなど、まちづくりの好循環が発現している。



【東川町フォトフェスタ】



【日本語学校】



【移住者によるカフェ】

評価された点

・大雪山の美しい自然や景観を生かして「写真の町」というコンセプトを打ち立て、東川株主制度や、公立東川日本語学校の設立など、東川ファンを生み出すことに成功し、アーティストや飲食店などを創業する若者の移住者が増加し、人口増につながっている。複数の政策を次々と打ち出し、その相互作用で移住定住に成果をあげていることは高く評価できる。
・「写真の町」として国内外に認知されたブランド力を生かし、家具や農産品など地域内経済の拡大を着実に実行し、定住人口の増加に結び付けている。
・写真を核とした「文化」によるまちづくりを30年以上にわたって継続。株主制度や公立日本語学校の開設など独自の取組みで、人のつながりをベースにしたオリジナルなまちづくりを進めており、賞賛に値する。
・公立日本語学校開設はグローバル化、外国人就労者の増加に伴う、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援モデルとして広がりを期待したい。

・まち・ひと・しごとは地方創生の基本であるが、大雪山や家具、地下水での生活など、町に蓄積された「モノ」「自然」「文化」「生活様式」を地域資源として捉え、それを活用したまちづくりは魅力的である。特にモノではなく写真として捉えた文化情報の発信は先進性と独自性があり、次代に向けた継続性と発展性につながっている。
・昭和60年の「写真の町宣言」より趣旨をぶらさず取り組みを重ねられ、町が国内外多くの人々の「ふるさと」になっている点を評価する。また、日本語学校の留学生や、観光客、写真甲子園での高校生ホームステイの受入者数も多く、住民全体の理解・協力を得ながら事業を推進されており、これからの発展性にも期待したい。